

在セネガル日本国大使館月報

2023年2月

主な出来事

セネガル

(内政)

- 16日、セネガル政府は、次期大統領選挙が2024年2月25日(日)に実施されると発表した。(17日 Le Soleil)

(外政)

- サル大統領は AU 首脳会合に出席すべく、17日、アディスアベバに到着し、18日、一年間務めた AU 議長職を満了した。(サル大統領 Twitter)
- 14日、ドバイを訪問中のサル大統領兼 AU 議長は、世界政府サミットにて、ウクライナ問題に関し、アフリカはこの戦争の犠牲者であり、平和に向けてすべての関係者と協力していくため、特定の立場をとることはないとの発言を行った。(14日 APS)
- 23日、国連総会緊急特別会合でのウクライナの平和を求める総会決議にて、セネガル政府は棄権した。(25日 Walf Quotidien)

(日本関係)

- 24日、JICA セネガル事務所は、JICA 海外協力隊事業 40 周年記念式典を実施し、セネガル側からゲイ青少年・起業・雇用省次官、チャム技術協力局長らが出席した。(28日 Le Quotidien)

(経済)

- 16日、バ首相は、企業経営者評議会主催の民間企業年次大会に出席し、将来的な減税に向けた大規模財政改革に着手することを発表した。(17日 Le Soleil)

カーボベルデ

- カーボベルデ銀行(同国の中央銀行)は、2021年1月から9月まで、在外カーボベルデ人から同国に対し約2億ユーロの送金(前年同期比で7%増)があったことを公表した。同国の人口約50万人に対し、ヨーロッパ・アメリカ在住の同国人は150万人と推定される。(8日 LUSA)

ガンビア

- 昨年12月に発生したクーデタ未遂事件の調査を担当した合同調査委員会は、22名の個人、17名の軍人、2名の警察官、3名の一般市民からの証言を引き出し、最終報告書を国に提出した。(1日 The Point)
- バロウ大統領は、ムハメド・ジャロウ氏を副大統領に任命し、24日、同氏はポストに就いた。同氏はイギリスで教育計画・統計の学位を取得し、ガンビア教育省や世界銀行での職務経験を持つ。(27日 The Point)

ギニアビサウ

- 23日、日本政府は令和3年度対ギニアビサウ緊急無償資金協力で、保健衛生分野の強化を目的とした機材(コールドチェーン、車両、バイク等)を供与した。(23日 TGB)

・閣僚の官職名は適宜省略した形とする。(例:タル外務・在外自国民大臣→タル外務大臣など)

セネガル

(内政)

内政一般

- 8日、サル大統領は地方出張の一環でティエス市を訪問した。9日、同地で閣議を開催し、今後3年間で同市に1兆5,000億 FCFA(約3,000億円)を投資することを発表した。同訪問は11日まで続き、実施中の経済関連事業を視察する。また、ソウ都市計画大臣は、今後10年間でティエス市近郊に80万人の受入れ能力のある新都市を整備する計画を公表した。(9日、10日 Le Quotidien)
- ジュルベル州東部に位置するンバケ県の知事は、公共秩序の混乱を避けるため、10日に予定されていた野党 PASTEF と BBY の集会を禁止した。しかし、同日15時頃、PASTEF 支持者らはデモを行い治安維持部隊と衝突し、投石行為、トタル社のガソリンスタンドの焼き討ち等を行った。結果、67名の逮捕者が出た。(10日 Le Soleil、11日 Walf Quotidien、15日 APS)
- 11日、サル大統領はサンルイ陸軍養成中等学校創設100周年記念行事に出席し、セネガル国内で二校目の軍人養成校を開設することを公表した。(13日 Le Soleil)
- 14日、デンバ・カンジ共和国仲裁人・オンブズマンは、市民社会代表者、宗教指導者らとの会合を開催し、市民の権利を擁護する立場にある自らの職務について説明した。(15日 Le Soleil)
- 15日、社会主義、共産主義、社会民主主義、エコロジスト等左派を構成する政党及び団体は、左派の統合を目指し、「複数の左派の土台醸成イニシアティブ」と題する集会を実施した。(16日 Sud Quotidien)
- 16日、セネガル政府は、次期大統領選挙が2024年2月25日(日)に実施されると発表した。(17日 Le Soleil)
- 20日、司法官高等評議会の会合が開催され、最高裁判所から下級裁判所まで司法官職(裁判官、検察官)の大規模な人事刷新が行われた。(21日 Le Soleil)
- 20日、サル大統領はライエン教団の年次巡礼集会に出席した際に同教団の総カリフと面会し、宗教指導者への敬意を表し、イスラムの価値の重要性について語った。(21日 Le Soleil)
- 23日、ライエン教団のママドゥ・ライ報道担当者はソンコ PASTEF 党首と会談し、政治的安定を遵守するよう同党首に働きかけた。(24日 Le Quotidien)
- 27日、サル大統領は経済視察の一環で、南部カザマンズ地方のセディウ県に到着した。28日、地方閣議を開催し、2023-2025年にかけて同地方の開発に4,000億 FCFA(約800億円)の投資をすることを決定した。(28日 Le Quotidien、3月1日 Le Soleil)

(外政)

二国間・多国間関係

- 2日、サル大統領は、第2回ダカールインフラ融資サミットの出席のためセネガルに到着したカガメルワンダ大統領を空港で迎え、二者会談を行った。また、両者は同サミットの開会を宣言した。(2日 Twitter、3日 Le Soleil)
- 3日、タル外務大臣は、ピザニ駐セネガル EU 大使他 EU 各国大使とワーキングランチを実施し、両者の協力、サヘル地域の治安、2024年セネガル大統領選挙を巡る政治問題について協議した。(4日 Le Soleil)
- 6日、サル大統領は、米海兵隊のラングレー大将を迎え、両国の軍事協力の強化について意見交換し

た。(6日 大統領府 Twitter)

- 8日、サル大統領は、ウフェ・ボワニ平和探求賞の授賞式(受賞者はメルケル前ドイツ首相)に出席するため、アビジャンを訪問した。(9日 Le Soleil)
- 12日、サル大統領は、アラブ首長国連邦で開催される世界政府サミットに出席すべくドバイに到着した。同サミットでは、アフリカのエネルギー転換、アフリカへの投資について語った。(13日 Le Soleil、14日 大統領府 Twitter)
- サル大統領は AU 首脳会合に出席すべく、17日、アディスアベバに到着し、18日、一年間務めた AU 議長職を満了した。(サル大統領 Twitter)
- 17日、タル外務大臣は、AU 首脳会議の-marginでモリー・フィー米国アフリカ担当国務次官補と共同昼食会を開催し、昨年12月の米 AU サミットのフォローアップを行った。(17日 タル大臣 Twitter)
- 22日、タル外務大臣は、ルクセンブルクのギヨーム皇太子の公式訪問を受け、両国間関係について意見交換した。また、23日、同皇太子はサル経済大臣と経済関係の強化につき協議した。(22日 タル大臣 Twitter、23日 Le Soleil)
- 22日に予定されていたモロッコ国王ムハンマド6世のセネガル公式訪問は、同国王の体調不良により中止となった。(23日 Le Soleil)

国際情勢・国連機関支援等

- 3月22-24日にニューヨークで開催される第2回国連水会議(テーマ:持続的開発のための水)の共同議長にセネガルが選出された。(2日 Le Quotidien)
- 2日、ジョン駐セネガル韓国大使とサル経済大臣は、国民議会の通信機器の近代化と公衆衛生研修所の強化に関する二つの供与事業に係る合意書に署名した。総額は72億6,000万 FCFA(約14億5,200万円)に上る。(3日 Le Soleil)
- 世銀は、カザマンス地方の60の自治体を対象に、経済開発に向けた最大240億 FCFA(約48億円)の支援を実施することを公表した(8日 APS)
- トルコで発生した地震を受け、セネガル政府は100万米ドルの義援金を拠出し、消防隊を派遣することを決定し、13日、消防隊はダカールを出発した。(13日 APS)
- 14日、ドバイを訪問中のサル大統領兼 AU 議長は、世界政府サミットにて、ウクライナ問題に関し、アフリカはこの戦争の犠牲者であり、平和に向けてすべての関係者と協力していくため、特定の立場をとることはないとの発言を行った。(14日 APS)
- 国連マリ多元統合安定化ミッション(MINUSMA)の枠組みでマリに派遣されているセネガル兵を乗せた車両が、マリ中部にて即席爆発装置に接触し、3名が死亡、5名が重傷を負った。(22日 Le Quotidien)
- 23日、国連総会緊急特別会合でのウクライナの平和を求める総会決議にて、セネガル政府は棄権した。(25日 Walf Quotidien)
- 28日、世界銀行の三輪桂子女史は、セネガル・カーボベルデ・ガンビア・ギニアビサウ・モーリタニア担当事務所長として着任した。(3月2日 Le Quotidien)

日本関連

- 9日、令和4年度対セネガル草の根無償資金協力「第一ゴローム村クル・ユウ保健ポスト医療機材整備計画」の署名式が開催され、伊澤駐セネガル日本国大使が出席した。(10日 Le Soleil)

- 10日、JICA セネガル事務所は、ダカール大学で教員と学生を対象に JICA チェアを開催し、日本での留学や研修について情報提供を行った。(11日 Le Soleil)
- 22日、住友商事はティエス市盲学校に対し、ブラインドサッカー用品(サッカーボール、すね当て、アイマスク、シューズ等)を提供した。(22日 APS)
- 24日、JICA セネガル事務所は、JICA 海外協力隊事業 40 周年記念式典を実施し、セネガル側からゲイ青少年・起業・雇用省次官、チャム技術協力局長らが出席した。(28日 Le Quotidien)

(経済)

経済一般

- バルデ総裁率いる APIX 代表団は UAE で開催されている投資フォーラムに参加し、中東の銀行家、投資家、政府機関関係者らに対し、セネガルの投資促進の経験に関する紹介を行った。(9日 APS)
- 14日、アラブ首長国投資ゲート・グループとセネガル政府は、セネガル政府が実施する住宅10万戸建設計画の一環として、住宅5万戸を建設する計画書に署名した。(15日 Le Soleil)
- 14日、国際放送 Canal+は、アフリカにおけるデジタル創造の研究所を創設する目的で、デジタル・ファクトリーをダカール市に開設した。(15日 APS)
- 16日、バ首相は、企業経営者評議会主催の民間企業年次大会に出席し、将来的な減税に向けた大規模財政改革に着手することを発表した。(17日 Le Soleil)

(社会)

- 21-22日、ライエン教団の第143回年次巡礼集会在ダカール市ヨフ地区で開催され、同教団はサル大統領の宗教組織に対する公平な扱いと国の安定への貢献を賞賛した。(23日 Le Soleil)

(文化・スポーツ)

- 4日、アルジェリアで開催中の第7回サッカー・アフリカネイションズチャンピオンシップ(CHAN)で、セネガル代表チームが決勝戦でアルジェリア代表にPKの末勝利し、優勝した。(6日 Le Soleil)
- 6日、サル大統領とンバケ・ムリッド教団総カリフは、同教団がトゥーバに開校したトゥーバ大学の開校式を執り行った。(4日 Le Soleil)

カーボベルデ

- オンライン旅行代理店トリップアドバイザーにより、カーボベルデは2023年世界の最も魅力ある観光国トップ25に選出された。(2日 Asemana)
- 6日、外務省は、コロナ、ウクライナ戦争、干ばつ等の影響により食料事情が悪化したことを受け、中国から130万ユーロの緊急食料援助を受けることを発表した。(6日 Asemana)
- 7日、政府はハンガリーの支援を受け、淡水化された海水を利用した農業用水を活用する事業を開始した。(7日 Inforpress)
- 港湾管理を担う Enapor は、2022年のカーボベルデへのクルーズ船の寄港数が、対前年比で360%に達したことを公表した。129回の寄港で約4万8千人の旅行者を記録した。(8日 LUSA)
- カーボベルデ銀行(同国の中央銀行)は、2021年1月から9月まで、在外カーボベルデ人から同国に対し約2億ユーロの送金(前年同期比で7%増)があったことを公表した。同国の人口約50万人に対し、ヨーロッパ・アメリカ在住の同国人は150万人と推定される。(8日 LUSA)
- シルバ農業・環境大臣は、GDP に占める農業セクターの割合が8%であると公表した。また、近代テク

ノジの導入により農業生産を効率化し、農業へ若年層を引きつけることにより生産を拡大するとの計画を語った。(10日 Expresso das Ilhas)

- 4月22-23日、国外で事業を展開するカーボベルデ企業が、国内への投資促進とネットワーク構築のためパリで国際投資フェアを開催する。(13日 Asemana)
- 15日、カーボベルデ中央銀行は、2022年の外貨準備高が前年比で5.1%増となったと公表した。(16日 LUSA)
- 16日、モンテイロ・カーボベルデ軍参謀総長は、目下の必要性に鑑み、200名の軍人が追加で必要との見解を示した。(16日 Balai)
- 国立統計研究所は、今年1月の輸入品の物価が前月比で2.2%上昇したことを公表した。(23日 Infopress)
- カーボベルデ中央銀行の発表により、2022年の同国の民間銀行の利益が対前年比で26.5%上昇したことが明らかになった。(27日 LUSA)

ガンビア

- 昨年12月に発生したクーデタ未遂事件の調査を担当した合同調査委員会は、22名の個人、17名の軍人、2名の警察官、3名の一般市民からの証言を引き出し、最終報告書を国に提出した。(1日 The Point)
- ガンビア政府は、女性の政治参加とリーダーシップ促進のため、国連機関と共同で200万米ドルに及ぶ取り組みを開始した。行政改革、地方レベルのリーダーシップ、政党の女性への機会提供の促進等が行われる。(3日 The Point)
- 国際NGOトランスペアレンシーインターナショナルが公表した2022年腐敗認識指数で、ガンビアは180か国中110位に位置づけられ、「最も腐敗した国」にカテゴライズされた。(3日 The Point)
- ガンビアで開催中の ECOWAS 経済通貨委員会第42回定例会合において、ガンビア中央銀行の経済調査局長は、ECOWAS 共通通貨の開始が2027年にずれ込むとの認識を示した。(3日 The Point)
- ジャロウ法務大臣は、司法の分野で ECOWAS と協力し、犯罪を起訴するハイブリッド法廷を設置すると発表した。(9日 The Point)
- 16-17日、世界銀行のンガルコ・アフリカ担当理事は、ガンビアの諸機関及び事業を視察すべく同国を訪問した。(23日 The Point)
- バロウ大統領は、ムハメド・ジャロウ氏を副大統領に任命し、24日、同氏はポストに就いた。同氏はイギリスで教育計画・統計の学位を取得し、ガンビア教育省や世界銀行での職務経験を持つ。(27日 The Point)
- 調査機関 Afrobarometer の調査により、81%のガンビア人が指導者を選ぶ最善の方法として選挙を支持しているものの、36%が同国の独立選挙委員会を信頼していないという結果が公表された。(28日 The Point)

ギニアビサウ

- 1日、サンチェス・スペイン首相は、マドリッドでエンバロ大統領兼ECOWAS議長を迎え、西アフリカの民主主義とグッドガバナンスの防衛、安全の確保等について協議し、両国の関係を強化していく意思を表明した。(1日 O Democrata)

- 3日、在ギニアビサウ中国大使館は、同国が直面する食料安全に係る問題の解決に寄与すべく、同国政府に対し、1,000トンの食料を供給すること、食料は10日ほどで港に到着することを発表した。(3日 O Democrata)
- 3日、エンバロ大統領は、6月4日の議会選挙を控え、国土・地方自治体行政担当国務大臣のポストを創設し、メンデス元ビサウ市長を任命した。(6日 O Democrata)
- 6日、世銀とギニアビサウ政府は、公共セクターの強化及び沿岸地域の強靱化に関する事業(約5,000万米ドル)の融資合意書に署名した。(6日 O Democrata)
- エンバロ大統領は、軍を視察し、国の発展のために軍人がよりよく働けるよう視察に来たとの目的を述べ、軍人に対し政治問題から距離を置き、平和の維持に集中するよう訓示を出した。(17日 Radio Bantaba)
- 20日、ゴメシュ文化大臣とソウ・セネガル文化大臣は、文化協力に関し、2023-2025年3か年実施計画と映画共同制作に関する合意書に署名した。(21日 Le Soleil)
- 23日、日本政府は令和3年度対ギニアビサウ緊急無償資金協力で、保健衛生分野の強化を目的とした機材(コールドチェーン、車両、バイク等)を供与した。(23日 TGB)
- 在ギニアビサウ・ロシア大使館は、3月にモスクワで開催される議会間会議にギニアビサウ国会議長が出席することを公表した。(23日 Radiosolmansi)

(注) 本月報は、セネガル、カーボベルデ、ガンビア、ギニアビサウの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。

(了)